

2025年6月13日

 中電環境テクノス株式会社

730-0041 広島市中区小町4番33号

## 中国新聞朝刊「新地場企業群像」への掲載について

当社が中国新聞朝刊の「新地場企業群像」に掲載されました。

記事では、当社の事業内容や新たな取り組みについて紹介されています。

中国新聞 2025年6月11日 水曜日 中国経済 8ページ

中国電力の子会社で、多様な環境対策事業を手がける。中国地方にある中電の火力発電所6カ所で排ガスや排水を処理する設備の稼働を担う。島根原発2号機(松江市)の放射性廃棄物処理設備や、中電が出資するバイオマス発電所2カ所の運転も任されている。発電時に出る硫酸酸化物(SO<sub>2</sub>)などが環境規制値を下回っているかを分析する業務や、排ガス処理に使う炭酸カルシウムの製造などにも取り組む。

### 新地場企業群像



パソコンの画面越しに、CO<sub>2</sub>削減のコンサルティングをする社員

## 中電環境テクノス (広島市中区)

# 電力の脱炭素化支える

中電環境テクノスの「環境関連のさまざまな相川義裕マネージャーは、事業を通じ、電力の安定供給を支えている」と説明する。

近年は、環境事業で深めた知見の活用を図っている。地場企業を対象にした二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量の算定や、CO<sub>2</sub>削減に向けたコンサルティングに力を入れる。CO<sub>2</sub>の算定は、工場内だけに留まらず、原材料の調達や製品の輸送など供

給網全体の排出量を「見える化」する。算定結果を基に、脱炭素化を進める計画作りもサポートする。相川マネージャーは「再生可能エネルギー由来の電力や環境負荷の低い原材料の導入なども企業に提案している」と話す。

中電の火力発電所から出る石炭灰を回収し、建材用に売る企業として1964年に設立。発電所内で石炭を運搬する装置の運転を受託するなど業務の幅を広げてきた。

今後は脱炭素の取り組みをさらに強める。中電の発電所で導入が見込まれるアンモニア混焼や、発生したCO<sub>2</sub>を回収して地下に貯留する「CCS」への参画に向け、技術的な検討を進める。電力業界の脱炭素化を支えている。(小川満久)

『中国新聞 2025年6月11日掲載』

(中国新聞社の掲載許諾を得ています)